

# 日本のNGOが 不発弾処理指導

## 自衛隊OB3人派遣

### 東ティモール

【ティリル藤谷健】東

ティモールに△△なお多数  
残る不発弾の処理技術  
を、自衛隊出身者らでつ  
くる非政府組織(NG  
O)が同国の警察に指導  
することに、25日午  
前、首都ティリリの警察学  
校で訓練開始式が開かれ  
た。

このNGOは、日本地  
雷処理・復興支援センタ  
ー(JDRAC、本部・  
東京都)。リーダーの久  
光禧敬さん(66)ら自衛隊  
を定年退官した60代の3  
人が、2年間の予定で、  
不発弾処理を新たに担当  
する警察官に爆発物の扱  
い方や撤去方法などを技  
術指導する。

3年前にインドネシア  
から独立した東ティモー  
ルでは、長年続いた独立  
闘争とその掃討作戦で使  
われた砲弾などが、ティ  
リをはじめ、全国各地に  
不発弾として残ってい  
る。また第2次大戦中に  
3年間駐留していた旧日  
本軍が使っていた爆弾も  
見つかっている。

昨年10月には日本の無  
償資金援助による道路建  
設の作業現場で5発の不

発弾が見つかるなど、経  
済活動の障害となってい  
るほか、手投げ弾で遊ん  
でいた子供がけがをする  
などの被害も出ている。

これまでは同国に展開  
していた国連東ティモー  
ル支援団の平和維持部隊  
が処理を担当。02年初め  
から現在まで1770発  
を処理してきた。しかし

独立3周年を迎えた今月  
20日に支援団が活動を終  
了したことに伴い、地元  
警察が不発弾処理を担う  
ことになったが、経験が  
ないことから訓練の必要  
が生じた。

JDRACの久光さん  
によると、当面は模型な  
どによる訓練を想定して  
いるが、不発弾が見つか  
れば、「実際に撤去作業  
をやりながらの実地研修  
になる」という。